

市川市史

自然編

都市化と生きものの

刊行にあたって

このたび『市川市史 自然編 都市化と生きもの』を刊行する運びとなりました。

本市ではすでに昭和40年から50年にかけて、「市川市史」全7巻を刊行しています。同書は、原始・古代の時代からの歴史を詳細かつ通史的にまとめたものとして、今日まで長く、市民の皆様に活用されてまいりました。



その後30年以上が経過し、昭和から平成へと時代が遷り変わる中、あらためて本市の歩みを振り返るべく、平成20年度より新たな「市川市史」の編さんを開始いたしました。新しい市史は、市民の皆様にとってわかりやすく、親しみやすい内容とすることを基本方針に、歴史編・民俗編・自然編の3分野構成で編さんを進めております。本書は、この新しい「市川市史」の記念すべき第一冊目として刊行するものです。

本市は、将来都市像として「ともに築く 自然とやさしさがあふれる文化のまち いちかわ」を目指し、これを実現するための基本目標のひとつに「人と自然が共生するまち」を掲げております。自然を守り、自然とふれあい、環境への負荷の少ないまちづくりを推進していく上で、本書が市民の皆様にとって自然や環境問題について改めて考えるきっかけとなり、末永く愛され活用いただけることを願っております。

本書の刊行にあたり、執筆者の皆様をはじめ、ご協力いただいた市民の皆様および関係者の皆様に深く感謝を申し上げますとともに、本事業の開始より長きにわたり本書の編集に多大なるご尽力をいただきました市川市史自然編編集委員会の皆様に厚く御礼申し上げます。

平成28年 3月

市川市長 **大久保 博**

まえがき

前回の市川市史（全7巻）は1970年代に刊行された。これは考古、歴史、文化などを主体としたもので、自然分野としては第1巻に「市川の地形」が載っているだけであった。この「市川の地形」は市川の自然を知る上で基礎的な資料として広く活用されてきた。

今回新たな「市川市史」の企画に当たっては、自然分野も加わることになり、自然編「都市化と生きもの」として位置づけられた。

従来市史というと、地域の歴史、民俗、文化などの分野と理解される傾向があったが、人の暮らす基盤としての自然の理解は不可欠である。地域の自然の実態を知り調べ、それを記録して後世に遺すこと—それは自然誌（あるいは自然史）と呼ばれるが—、それが人文系と両輪をなして市川市史を構成することに大きな意義がある。

本書は、「市川市の地形と気象」「市域の自然の姿とその変遷」「都市に暮らす生きもの」「残された自然と保全の取り組み」「市川の動植物」の5章から構成されている。太古からの地形や植生の変遷を展望し、人と自然の関わりを考えた。特に近世以降、人による自然の改変が進んだ時代に入ると、そのなかに暮らす生きものの生活に目を向けた。都市化と呼ばれる現象の著しい市川市においては、本来の生物の減少とともに、都市生物ともいべき動植物も増加してきた。

こういう状況にあって、地域本来の自然を保全しよう、あるいは新たな自然の創出に取り組むなかにあつて、生物多様性を図ろうという動きが盛んに行われてきた。これらの記録を残し後世に伝えることも市史の重要な役割と考える。

本書では、それらをできるだけ市民の目線に立って記述することを心がけた。

動きの激しい都市にあつても、人は自然とともに生きていかねばならない。そして自然の持続的でかつ賢明な利用を考えていきたい。市史自然編がそのような歩みに役立つことを望んでやまない。

平成28年3月

市川市史自然編編集委員会 岩 瀬 徹